

アンリ・バルダ

ピアノ協奏曲の夕べ

2022. **11/8** (火) 19:00開演
(18:15開場)

東京芸術劇場
コンサートホール

W.A.モーツァルト：
ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調「ジュノーム」K.271

W.A.モーツァルト：
交響曲 第31番 ニ長調「パリ」K.297

F.ショパン：
ピアノ協奏曲 第2番 ヘ短調 Op.21

指揮：**横山 奏**

管弦楽：**横浜シンフォニエッタ**

チケット S席 ¥7,000 A席 ¥5,000 B席 ¥3,000 (税込)

コンサートイマジン ▶ Tel. 03-3235-3777 (10:00-18:00/日・祝除く)

Web. <http://concert.co.jp> (無料会員登録で24時間、オンラインでご予約いただけます。カード決済、座席指定可) 上記QRコードへアクセス!

チケットぴあ ▶ <https://t.pia.jp/> 【Pコード:219-956】 ローソンチケット ▶ <https://l-tike.com/> 【Lコード:31512】

e+(イープラス) ▶ <http://eplus.jp/> 東京芸術劇場ボックスオフィス ▶ 0570-010-296 (休館日を除く10:00~19:00)
※一部携帯電話、PHS、IP電話からは、ご利用いただけません。《Web》<https://www.geigeki.jp/t/>

主催：コンサートイマジン



Henri BARDA Piano Concertos



これぞ本物の音楽

三大陸(アフリカ・ヨーロッパ・アメリカ)で学んだ音楽がここに結集!

2021年夏、オリンピックを目前に控えた東京にやって来た“神秘のピアニスト”アンリ・バルダはサントリーホールでのラフマニノフ「ピアノ協奏曲第3番」の熱演、紀尾井ホールでのリサイタルによって、外国人アーティストの生の演奏から長く遠ざかっていたクラシックファンを沸かせた。日本滞在中にバルダは80歳を迎えた。

来日中からバルダが熱望していたのが、このコンチェルト・プログラムだった。サントリーホールのリハーサルでも指慣らしで弾いていた「ジュノーム」、そしてショパンの傑作「第2番」。

指揮者は横山奏、そして管弦楽には横浜シンフォニエッタが登場。国内の気鋭の演奏家たちとバルダの共演にも期待がかかる。そして、ホロヴィッツも愛用したニューヨーク・スタンウェイが今回の公演ではバルダの使用楽器として登場する。

2019年の東京文化会館大ホール、2021年のサントリーホールに続き、新たなバルダの大舞台となる今回の公演。ご期待ください!



アンリ・バルダ (ピアノ)

古きヨーロッパの良き伝統を受け継ぐ、稀有なピアニスト。往年のコルトーを彷彿とさせるその深い诗情と多彩な感情表現は、世界各地で高く評価されている。16歳より巨匠ラザール・レヴィに師事。パリ国立高等音楽院ではピアノと室内楽を首席で卒業。ジュリアード音楽院へも完全給費生として留学し、首席で卒業。以後ヨーロッパ各国をはじめ、米国、イスラエルなど世界中で演奏を行う。またパリ・オペラ座他、バレエ団のピアニストも務め、多くの信頼も得ている。

パリ国立高等音楽院教授を経て、2006年より現在までパリ・エコール・ノルマル音楽院教授として教鞭を執っている。日本では神戸でマスタークラスを毎年開催。近年もパリの殿堂サル・ガヴォーでのリサイタルを成功させるなど、精力的に活動。パリ、香港やナンシー他世界各地で多くの公演やマスタークラス等に招かれている。

日本においては、1981年N響定期(マーツァル指揮ショパン「ピアノ協奏曲第2番」)で初来日。最近では、2002年トッパンホール、2008・2010年と紀尾井ホールでリサイタルを開催。2013年、青柳いづみこ著「アンリ・バルダ 神秘のピアニスト」(白水社)出版。2015年(浜離宮朝日ホール公演完売)、2017年(東京文化会館小ホール公演完売)とその後来日の度に公演数を重ねる。2019年には東京文化会館大ホールに舞台を移して、3つのソナタを含むオール・ショパン・プログラムを披露。2021年7月、80歳を迎えてサントリーホールにてラフマニノフ「ピアノ協奏曲第3番」を東京交響楽団と共演。喝采を浴びた。

横山 奏 (指揮)

2018年東京国際音楽コンクール(指揮)で第2位および聴衆賞を受賞。一躍注目を集め、今後の活躍が大いに期待される若手指揮者である。札幌市出身。北海道教育大学を卒業後、桐朋学園にて学び、東京藝術大学大学院を修了。17年WMC Kerkrade指揮者コンクールで第3位受賞。15-17年シティ・フィル指揮研究員。都響、読響をはじめ、全国各地のオーケストラと共演。21年、バーンスタインの「キャンディード」(田尾下哲演出)を指揮し、公演を大成功に導く。同年の大阪響とのドヴォルジャーク「交響曲第8番」は、『音楽の友』誌にて「新しい地平への展望を描き出した」と絶賛されている。



横浜シンフォニエッタ

1998年、東京藝術大学学内にて音楽監督山田和樹によりトマトフィルハーモニー管弦楽団として創設。2005年横浜シンフォニエッタに改名、10年一般社団法人化する。その後の快進撃は、フランス/ラ・フォル・ジュルネ音楽祭に日本の楽団として初めて招聘を皮切りに、モスクワ/ロストロポーヴィッチ国際音楽祭等海外の著名な音楽祭にも度々招聘され現地で大絶賛される。国内外にてCDリリース多数。テレビ朝日「題名のない音楽会」にも度々出演し、国内外から大きな注目を集めているオーケストラである。横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。 オフィシャルサイト yokohama-sinfonietta.com



新型コロナウイルス感染予防対策について、お客様へのお願い

「マスクのご着用」「咳エチケット」等、ご来場いただくお客様へのお願いをコンサートイマジンHPに掲載しております。ご来場の際には必ずお読みください。

<http://www.concert.co.jp/news/detail/1300/>

